

何ら変わらぬ企業体質!

自らの経営責任は棚上げ! 責任転嫁は許さない!
乗務員不適格のシッテル張り、配転では何も解決しない!

2009年4月11日 朝日新聞(夕刊)

JR脱線 車掌復職求め提訴へ

「遺族といつても会おう」
「責任転嫁 会社許せぬ」

乗務員として勤務していたJR西日本の車掌(40代)が、脱線事故で死亡した。遺族は「会社は責任を棚上げし、乗務員を不適格と判断して復職させない」として、JR西日本を相手取り、復職を求めた。遺族は「会社は責任を棚上げし、乗務員を不適格と判断して復職させない」として、JR西日本を相手取り、復職を求めた。

遺族の反応 複雑
遺族の思いは複雑だ。大空に帰った乗務員の死を悼み、会社は「乗務員が不適格と判断した」として復職させない。遺族は「会社は責任を棚上げし、乗務員を不適格と判断して復職させない」として、JR西日本を相手取り、復職を求めた。

「感情逆なで」 ■「復職させたら良い」
遺族は「会社は責任を棚上げし、乗務員を不適格と判断して復職させない」として、JR西日本を相手取り、復職を求めた。

2009年4月11日 読売新聞(夕刊)

福知山線脱線 車掌「遺族に説明したい」

「申し訳なかった」

乗務員として勤務していたJR西日本の車掌(40代)が、脱線事故で死亡した。遺族は「会社は責任を棚上げし、乗務員を不適格と判断して復職させない」として、JR西日本を相手取り、復職を求めた。

JR西を提訴へ
乗務員として勤務していたJR西日本の車掌(40代)が、脱線事故で死亡した。遺族は「会社は責任を棚上げし、乗務員を不適格と判断して復職させない」として、JR西日本を相手取り、復職を求めた。

尼崎脱線事故 JR西の車掌

百七人が死亡した〇〇五年四月の尼崎JR脱線事故で車掌として乗務し、現在休職中のJR西日本社員松下正俊さんが、復職先として乗務員以外の職場を同社から提示されたのは不当として、車掌としての地位確認を求め十四日に大阪地裁に提訴することが十一日、分かった。

「配転不当、復職を」提訴へ

して適性に疑義がある」として、JR西によると、これらの点は事故時の車掌の対応を定めたマニュアル違反と判断された。また長期休職後の職場となるため、乗客の安全にかかわる〇七年秋以降、「病気の悪影響がら自傷者を救護せず、国土部書への復職は望ましくない」として、乗務員と交通省航空・鉄道事故調査と結ぶげたという。

福知山線脱線事故の当該列車に車掌として乗務し、その後体調不良で休職していた、JR西労組員・松下正俊さんは、職場復帰に際し、JR西日本が示した駅への配置転換は、「全く必要のない判断あり、乗務員不適格のレッテル貼りは、飼い殺しにする狙いとしか思えない」と怒りをあらわに裁判で闘うことを決意しました。

JR東海労は、経営責任を棚上げにし、責任転嫁する姿勢は許しません。松下さんと共に闘います。